

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

. 概況

【事業環境】

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、政府債務問題に起因した欧州金融市場の不安定化や、新興国における成長率の鈍化など、景気減速の動きが見られました。国内経済は、東日本大震災による停滞からサプライチェーンの回復は予想以上に早かったものの、海外経済の減速や円高による輸出の減少、タイの洪水影響により持ち直しの動きが停滞しており、景気の先行きに対する不透明感が高まってきております。

国内のICT (Information and Communication Technology) 投資は、東日本大震災以後アウトソーシングやBCP (Business Continuity Plan : 事業継続計画) 対応などクラウドサービスの利活用に対する関心の高まりはあるものの、景気の先行きに対する不安感などから慎重姿勢が継続しており、本格的な回復に至っておりません。

【第3四半期(直近3ヶ月)の概況】

(単位:億円)

	2010年度 第3四半期 〔2010年10月1日～ 2010年12月31日〕	2011年度 第3四半期 〔2011年10月1日～ 2011年12月31日〕	前年同期比		為替影響を 除く 増減率(%)
				増減率(%)	
売上高	10,964	10,797	* 167	1.5	0
売上原価	7,943	7,979	35	0.4	
売上総利益 (売上総利益率)	3,020 (27.5%)	2,818 (26.1%)	202 (1.4%)	6.7	
販売費及び一般管理費	2,807	2,786	21	0.8	
営業利益 (営業利益率)	212 (1.9%)	31 (0.3%)	* 181 (1.6%)	85.0	
営業外損益	20	11	32	-	
経常利益	192	43	148	77.4	
特別損益	31	27	58	-	
税金等調整前四半期純利益	223	16	207	92.8	
法人税等 少数株主利益	57 0	69 9	11 10	20.3 -	
四半期純利益	165	43	208	-	

*タイの洪水による減額影響額：売上高 340億円、営業利益 140億円

(注)タイの洪水による減額影響額は、タイで発生した洪水による生産計画や販売計画の見直しなどに伴う減収、費用増などの概算影響額を試算しており、部品の調達遅れや価格上昇、顧客の生産調整などによる影響額が含まれております。

【第3四半期(累計)の概況】

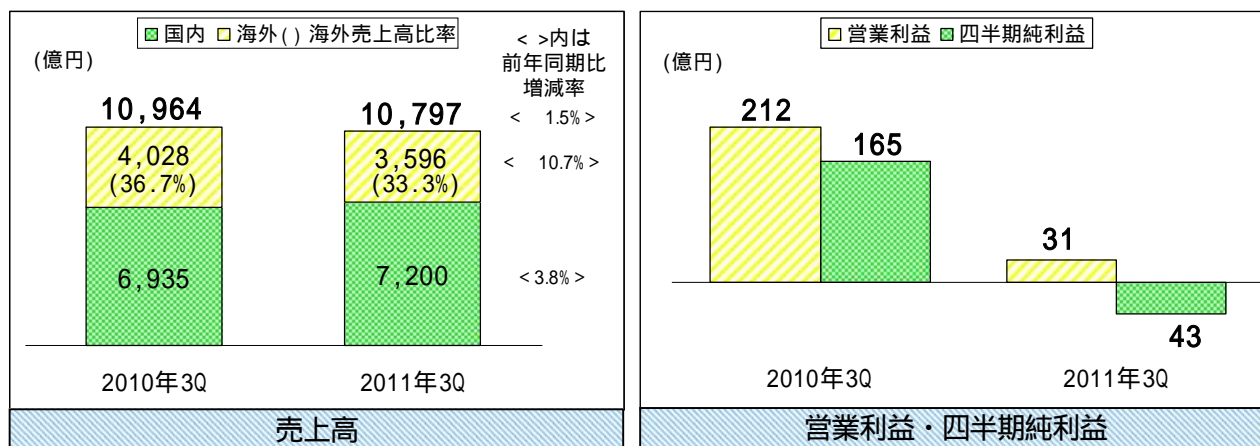
(単位:億円)

	2010年度 第3四半期累計 〔2010年4月1日～ 2010年12月31日〕	2011年度 第3四半期累計 〔2011年4月1日～ 2011年12月31日〕	前年同期比		為替影響を 除く 増減率(%)
				増減率(%)	
売上高	32,438	31,720	718	2.2	0
営業利益 (営業利益率)	684 (2.1%)	102 (0.3%)	582 (1.8%)	85.0	
経常利益	506	23	483	95.4	
四半期純利益	356	14	341	96.0	

第3四半期(直近3ヶ月)

以下の文中において、当第3四半期連結会計期間を当第3四半期、当第3四半期連結累計期間を当第3四半期(累計)、前年同四半期連結会計期間及び前年同四半期連結累計期間を前年同期と記載しております。また、文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第3四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

【損益の状況】



売上高は1兆797億円と、前年同期比1.5%の減収になりました。国内は3.8%の増収です。タイで発生した洪水に起因する部品の調達遅れや顧客の生産調整などによる売上減の影響が、携帯電話、オーディオ・ナビゲーション機器、LSIなどでありました。また、LSIや電子部品が所要低迷の影響を受けましたが、スマートフォンの普及に伴い携帯電話基地局などのネットワークや携帯電話が伸長し、国内合計では増収となりました。海外は10.7%の減収ですが、為替影響を除くと5%の減収です。欧米を中心にインフラサービス、サーバ関連が減収となったほか、堅調に推移してきた米国での光伝送システムが一時的な投資抑制の影響を受けました。

米ドルの平均レートは77円(前年同期比6円の円高)、ユーロは104円(前年同期比8円の円高)、英ポンドは122円(前年同期比9円の円高)となり、為替影響により売上高が前年同期比で約220億円減少し、海外売上高比率は33.3%と、前年同期比3.4ポイント低下しました。

売上総利益は2,818億円と、前年同期比202億円の減益になりました。タイの洪水による減収やHDDなどの部品価格の高騰の影響、LSIや電子部品の減収影響などによります。売上総利益率は26.1%と、前年同期比で1.4ポイント悪化しました。

販売費及び一般管理費は2,786億円と、前年同期比21億円減少しました。ネットワークなどで先行投資を継続する一方で、全社的な費用効率化を進めました。

この結果、営業利益は31億円と、前年同期比181億円の減益になりました。

経常利益は43億円と、前年同期比148億円の減益になりました。営業外損益は、為替の決済差益の計上などにより11億円となりました。前年同期比では32億円改善しました。

事業構造改善費用として27億円を特別損失に計上しました。オーディオ・ナビゲーション機器事業における国内生産体制の再編決定に伴い当第3四半期に発生した一部の費用や、欧州を中心とした海外サービス事業の合理化に係る費用を計上しました。

四半期純利益は43億円の損失と、前年同期比208億円の悪化になりました。税金等調整前四半期純利益の減益に加え、税制改正に伴う実効税率の低下により税金費用が増加しました。

セグメント情報

（単位：億円）

		2010年度 第3四半期	2011年度 第3四半期	前年同期比		
		（2010年10月1日～ 2010年12月31日）	（2011年10月1日～ 2011年12月31日）	増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	7,181	6,861	319	4.5	2
	国内	4,446	4,434	11	0.3	0
	海外	2,735	2,426	308	11.3	6
	営業利益 (営業利益率)	249 (3.5%)	259 (3.8%)	9 (0.3%)	4.0	
サービス	売上高	5,807	5,591	216	3.7	2
	営業利益 (営業利益率)	190 (3.3%)	221 (4.0%)	31 (0.7%)	16.4	
	システム プラットフォーム	1,373	1,270	103	7.5	6
	営業利益 (営業利益率)	59 (4.3%)	37 (3.0%)	21 (1.3%)	36.0	
ユビキタス ソリューション	売上高	2,895	3,011	116	4.0	6
	国内	2,148	2,338	190	8.9	9
	海外	747	673	74	9.9	4
	営業利益 (営業利益率)	36 (1.3%)	20 (0.7%)	16 (0.6%)	43.6	
デバイス ソリューション	売上高	1,553	1,381	171	11.1	9
	国内	934	821	113	12.1	12
	海外	619	560	58	9.5	4
	営業利益 (営業利益率)	84 (5.4%)	84 (6.1%)	168 (11.5%)	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	666	458	208	-	-
	営業利益	157	164	6	-	
連結	売上高	10,964	10,797	167	1.5	0
	国内	6,935	7,200	264	3.8	4
	海外	4,028	3,596	431	10.7	5
	営業利益 (営業利益率)	212 (1.9%)	31 (0.3%)	181 (1.6%)	85.0	

売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2010年度 第3四半期 〔2010年10月1日～ 2010年12月31日〕	2011年度 第3四半期 〔2011年10月1日～ 2011年12月31日〕	前年同期比		洪水影響		
			増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)			
連	テクノロジーソリューション	7,181	6,861	319	4.5	2	-
	サービス	5,807	5,591	216	3.7	2	-
	ソリューション/ S I	1,896	1,915	19	1.0	1	-
	インフラサービス	3,911	3,676	235	6.0	3	-
	システムプラットフォーム	1,373	1,270	103	7.5	6	-
	システムプロダクト	763	578	185	24.3	23	-
	ネットワークプロダクト	609	691	82	13.5	15	-
結	ユビキタスソリューション	2,895	3,011	116	4.0	6	300
	パソコン/携帯電話	2,249	2,324	74	3.3	5	180
	モバイルウェア	646	687	41	6.4	8	120
	デバイスソリューション	1,553	1,381	171	11.1	9	40
	L S I	874	756	118	13.5	12	30
	電子部品	683	628	55	8.0	5	10

[2011年度 売上高の四半期別推移]

（単位：億円）

	第1四半期	第2四半期	第3四半期
ソリューション/ S I	1,685	2,077	1,915
インフラサービス	3,655	3,769	3,676
システムプロダクト	628	687	578
ネットワークプロダクト	622	729	691
パソコン/携帯電話	1,908	2,074	2,324
モバイルウェア	445	728	687
L S I	770	857	756
電子部品	640	621	628

(注)1.売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。

2.為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第3四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

3.洪水影響は、タイで発生した洪水による生産計画や販売計画の見直しなどに伴う減収、費用増などの概算影響額を試算しており、部品の調達遅れや価格上昇、顧客の生産調整などによる影響額が含まれております。

4.「L S I」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

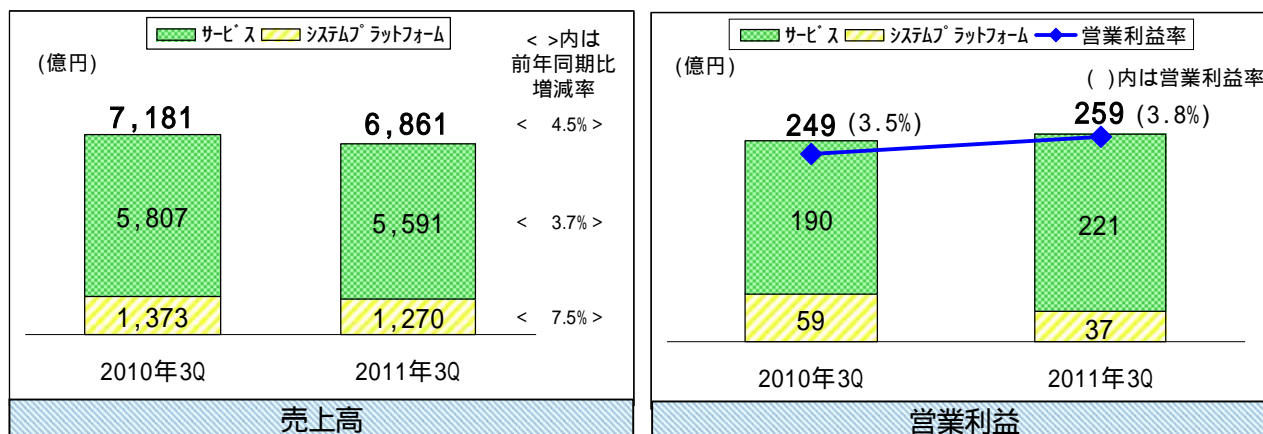
5.「その他/消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。

【セグメント別の状況】

当第3四半期のセグメント別の売上高(セグメント間の内部売上高を含む)及び営業利益は以下のとおりです。

<事業別>

テクノロジーソリューション



(単位: 億円)

売上高は6,861億円と、前年同期比4.5%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。サービスは、金融分野を中心とした大型システム商談の減少や通信キャリアの投資がハードウェアにシフトした影響、さらにネットワークサービスの減収があったものの、製造分野及びヘルスケア関連の投資回復により、全体としてはほぼ前年同期並みとなりました。システムプラットフォームもほぼ前年同期並みとなり、サーバ関連の減収を、通信キャリアの投資増加によるネットワークの増収で補いました。海外は11.3%の減収になり、為替影響を除いても6%の減収です。英国政府の緊縮財政政策の継続、欧米向けUNIXサーバの減収に加え、これまで投資を前倒してきた米国通信キャリアの新年度を控えた一時的な投資抑制がありました。

	2011年度 第3四半期	前年同期比
売上高	6,861	4.5%
国内	4,434	0.3%
海外	2,426	11.3%
営業利益	259	9

営業利益は259億円と、前年同期比9億円の増益になりました。国内では、ネットワークの増収効果やPCサーバのコストダウン効果がありましたが、システムインテグレーションやサーバ関連で大型システム商談の減少影響があり、ほぼ前年同期並みになりました。海外では、UNIXサーバやネットワークの減収影響に加えて、ネットワークの先行投資はありますが、欧州のサービスビジネスの採算性が改善しつつあり、増益になりました。

サービス

(単位:億円)

売上高は5,591億円と、前年同期比3.7%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。システムインテグレーションは、金融分野を中心とした大型システム商談の減少や、通信トラフィック増加に対応するために通信キャリアの投資がハードウェアにシフトしている影響があったものの、製造分野やヘルスケア関連の投資が回復しており、ほぼ前年同期並みになりました。

	2011年度 第3四半期	前年同期比
売上高	5,591	3.7%
国内	3,457	0.6%
海外	2,133	8.3%
営業利益	221	31

インフラサービスは、アウトソーシングサービスが堅調に推移しましたが、ネットワークサービスが減収になりました。海外は8.3%の減収になりましたが、為替影響を除くと3%の減収です。英国政府の緊縮財政政策の影響が継続しているほか、米州も伸び悩んでおります。

営業利益は221億円と、前年同期比31億円の増益になりました。国内では、大型システム商談が減少した影響により減益となりました。海外では、欧州のサービスビジネスの採算性が改善しつつあります。

国内の民需分野において、中堅のお客様を担当する営業部門の株式会社富士通マーケティングへの集約が2011年10月に完了しました。製造・流通などのSEを強化してきた地域SE会社群を2012年4月に東日本、西日本、九州の3地域に再編・統合することを決定しました。クラウドサービスを見据えたソリューション開発や共通技術を活用した開発効率化を進めるとともに、業種ノウハウを蓄積し、お客様のグローバル展開を支援する体制を強化するため、「攻めの構造改革」を推進してまいります。

システムプラットフォーム

(単位:億円)

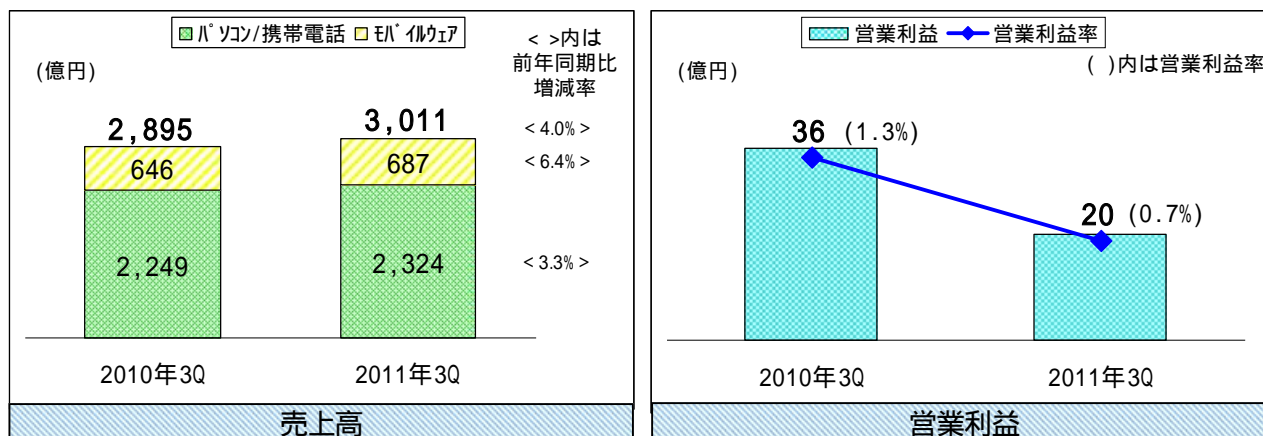
売上高は1,270億円と、前年同期比7.5%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。前年同期に次世代スーパーコンピュータシステムを構成する専用サーバを量産した影響があり、当第3四半期は大型システム商談の減少があったものの、スマートフォンの普及に伴う通信トラフィック増加対策を背景として、通信キャリア向けルータや携帯電話基地局が伸長しました。

	2011年度 第3四半期	前年同期比
売上高	1,270	7.5%
国内	977	1.1%
海外	293	28.1%
営業利益	37	21

海外は28.1%の減収になり、為替影響を除いても23%の減収です。欧米向けUNIXサーバが減収になったほか、米国の光伝送システムが、これまで投資を前倒してきた通信キャリアの新年度を控えた一時的な投資抑制により減収になりました。

営業利益は37億円と、前年同期比21億円の減益になりました。国内では、サーバやストレージで大型システム商談が減少した影響があったものの、ネットワークの増収効果があったほか、PCサーバのコストダウンを進めました。海外では、UNIXサーバや光伝送システムの減収影響に加えて、ネットワークを中心に先行投資を進めたことにより、減益になりました。

ユビキタスソリューション



(単位：億円)

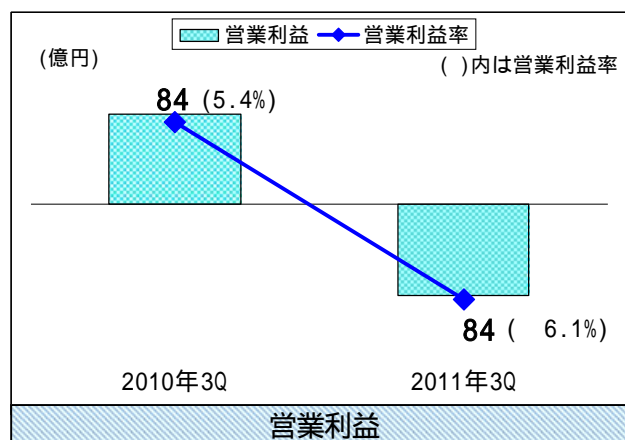
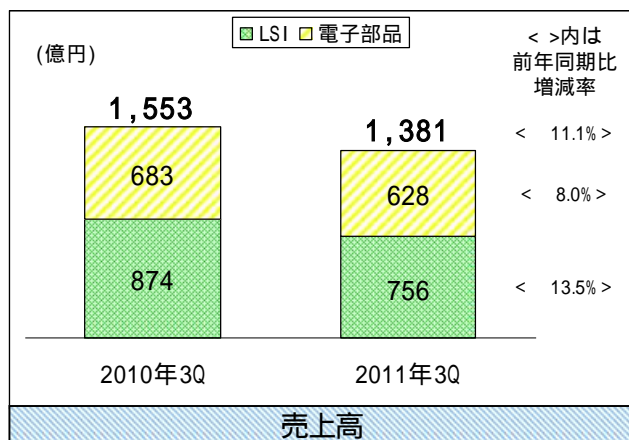
売上高は3,011億円と、前年同期比4.0%の増収になりました。国内は8.9%の増収です。パソコンは、企業向けの大型ロット商談があったものの、個人向け市場において販売価格が低下しているほか、タイの洪水に起因するHDD調達難により販売台数が伸び悩みました。携帯電話は、タイの洪水に伴う一部部品の調達遅れがあったものの、スマートフォンを中心に投入

した新機種の販売好調により増収になりました。またモバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器は増収になりました。タイの洪水により車両生産が停滞した影響はありましたが、前年同期はエコカー補助金制度終了による新車販売台数減少の影響を受けていました。海外は9.9%の減収になりました。為替影響を除いても4%の減収です。パソコンは欧州拠点を中心に販売台数が増加しましたが、価格競争が激化しており前年同期並みになりました。モバイルウェアは、海外の車両生産が停滞した影響などにより減収になりました。

営業利益は20億円と、前年同期比16億円の減益になりました。国内では、パソコンのHDD調達コストが増加しましたが、携帯電話とモバイルウェアの増収効果により増益になりました。海外では、パソコンのHDD調達コストの増加影響や、モバイルウェアの減収影響がありました。

	2011年度 第3四半期	前年同期比
売上高	3,011	4.0%
国内	2,338	8.9%
海外	673	9.9%
営業利益	20	16

デバイスソリューション



(注)「LSI」の売上高には「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

売上高は1,381億円と、前年同期比11.1%の減収になりました。国内は12.1%の減収です。LSIは、前年同期にピークであった次世代スーパーコンピュータシステム用CPUの生産が当年度の第1四半期までに終息したほか、自社サーバ向けが低迷しました。またデジタルAV向けを中心にタイ洪水影響や所要回復遅れの影響がありました。電子部品は前年同期並みでした。海外は9.5%の減収になり、為替影響を除いても4%の減収です。LSIはスマートフォン向け画像処理用LSIの所要増があったものの、デジタルAV向けが低迷し、ほぼ前年同期並みになりました。電子部品は、アジア向けを中心とした半導体パッケージや電池などが減収になりました。

(単位：億円)

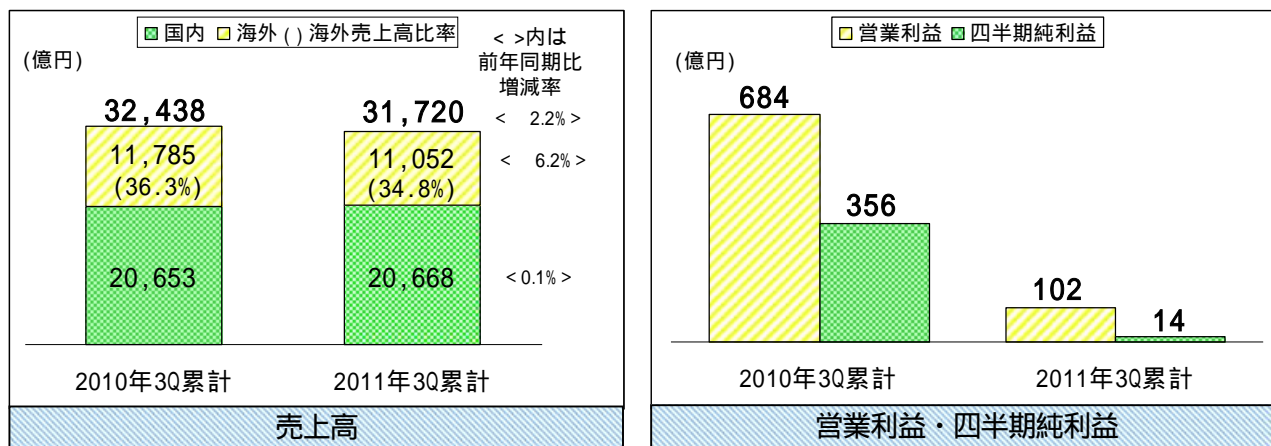
	2011年度 第3四半期	前年同期比
売上高	1,381	11.1%
国内	821	12.1%
海外	560	9.5%
営業利益	84	168

営業利益は84億円の損失です。所要の低迷に加えてタイの洪水影響もあり、第2四半期と比較して損失が拡大しました。前年同期比では168億円の悪化になりました。国内では、LSIは減収影響に加え、所要減に伴い製造ラインの稼働率の低下がありました。電子部品は減収影響を費用効率化などで補うことができませんでした。海外では、LSI、電子部品ともに円高及び所要減による減収影響がありました。

第3四半期(累計)

文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第3四半期(累計)の外貨建取引高に適用して試算しております。

【損益の状況】



売上高は3兆1,720億円と、前年同期比2.2%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。前年度に発生した東日本大震災及び当第3四半期(累計)にタイで発生した洪水に起因する部品の調達遅れや顧客の生産調整などによる売上減の影響が、オーディオ・ナビゲーション機器、携帯電話、LSIなどでありました。また、LSIや電子部品が所要低迷の影響を受けましたが、スマートフォンの普及に伴い携帯電話基地局などのネットワークや携帯電話が増収となりました。震災影響があった第1四半期では前年同期比約350億円の減収からスタートしましたが当第3四半期(累計)では前年の売上水準まで回復しました。海外は6.2%の減収で、為替影響を除くと1%の減収です。豪州などでインフラサービスが伸長したほか、欧州でのパソコンが増収となりましたが、電子部品や、欧米向けUNIXサーバが減収となりました。

米ドルの平均レートは79円(前年同期比8円の円高)、ユーロは111円(前年同期比2円の円高)、英ポンドは127円(前年同期比7円の円高)となり、為替影響により売上高が前年同期比で約570億円減少し、海外売上高比率は34.8%と、前年同期比1.5ポイント低下しました。

売上総利益は8,557億円と、前年同期比478億円の減益になりました。LSIや電子部品を中心とした減収影響などによります。また、売上総利益率は27.0%と、0.9ポイント悪化しました。

販売費及び一般管理費は8,454億円と、前年同期比103億円増加しました。クラウドサービスやネットワークなどで先行投資を進めました。

この結果、営業利益は102億円と、前年同期比582億円の減益になりました。

経常利益は23億円と、前年同期比483億円の減益になりました。営業外損益は79億円の損失と、為替差損益の改善や固定資産廃棄損の減少などにより前年同期比で98億円改善しました。

災害による損失75億円、事業構造改善費用27億円など109億円を特別損失に計上しました。災害による損失は東日本大震災の余震により被災した工場や、顧客要因により影響を受けた工場の操業休止期間の固定費等に係るものです。また、事業構造改善費用はオーディオ・ナビゲーション機器事業における国内生産体制の再編決定に伴い当第3四半期(累計)に発生した一部の費用や、欧州を中心とした海外サービス事業の合理化に係る費用を計上したものです。

四半期純利益は14億円と、前年同期比341億円の減益になりました。経常利益及び税金等調整前四半期純利益は悪化しましたが、欧州子会社の清算決定やグループ内再編による株式譲渡に伴う税金費用の減少効果がありました。

セグメント情報

（単位：億円）

		2010年度 第3四半期累計 （2010年4月1日～ 2010年12月31日）	2011年度 第3四半期累計 （2011年4月1日～ 2011年12月31日）	前年同期比		
				増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	21,189	20,715	473	2.2	1
	国内	13,306	13,181	124	0.9	1
	海外	7,882	7,534	348	4.4	0
	営業利益 (営業利益率)	813 (3.8%)	716 (3.5%)	96 (0.3%)	11.9	
サービス	売上高	17,099	16,778	321	1.9	0
	営業利益 (営業利益率)	575 (3.4%)	522 (3.1%)	53 (0.3%)	9.3	
	システム プラットフォーム	売上高 営業利益 (営業利益率)	4,089 237 (5.8%)	3,937 194 (4.9%)	152 43 (0.9%)	3.7 18.1
ユビキタス ソリューション	売上高	8,307	8,170	137	1.7	1
	国内	6,254	6,214	40	0.7	1
	海外	2,053	1,955	97	4.7	1
	営業利益 (営業利益率)	188 (2.3%)	64 (0.8%)	123 (1.5%)	65.9	
デバイス ソリューション	売上高	4,750	4,266	483	10.2	7
	国内	2,681	2,517	164	6.1	6
	海外	2,068	1,748	319	15.5	9
	営業利益 (営業利益率)	197 (4.2%)	132 (3.1%)	329 (7.3%)	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	1,808	1,431	376	-	-
	営業利益	514	546	31	-	
連結	売上高	32,438	31,720	718	2.2	0
	国内	20,653	20,668	15	0.1	0
	海外	11,785	11,052	733	6.2	1
	営業利益 (営業利益率)	684 (2.1%)	102 (0.3%)	582 (1.8%)	85.0	

売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2010年度 第3四半期累計 〔2010年4月1日～ 2010年12月31日〕	2011年度 第3四半期累計 〔2011年4月1日～ 2011年12月31日〕	前年同期比		
			増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	21,189	20,715	473	2.2	1
サービス	17,099	16,778	321	1.9	0
ソリューション/ S I	5,691	5,677	13	0.2	0
インフラサービス	11,408	11,100	307	2.7	0
システムプラットフォーム	4,089	3,937	152	3.7	2
システムプロダクト	2,130	1,894	235	11.1	10
ネットワークプロダクト	1,959	2,043	83	4.3	7
結					
ユビキタスソリューション	8,307	8,170	137	1.7	1
パソコン/ 携帯電話	6,146	6,307	161	2.6	3
モバイルウェア	2,161	1,862	299	13.8	12
デバイスソリューション	4,750	4,266	483	10.2	7
L S I	2,567	2,383	183	7.1	5
電子部品	2,195	1,890	304	13.9	10

- (注)1. 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。
2. 為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の平均円レートを当第3四半期（累計）の外貨建取引高に適用して試算しております。
3. 「L S I」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。
4. 「その他/ 消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。

【セグメント別の状況】

当第3四半期(累計)のセグメント別の売上高(セグメント間の内部売上高を含む)及び営業利益は以下のとおりです。

<事業別>

テクノロジーソリューション

(単位:億円)

売上高は2兆715億円と、前年同期比2.2%の減収になりました。国内は0.9%の減収です。サービスは、製造分野及びヘルスケア関連の投資が回復しておりますが、金融及び公共分野の大型システム商談の減少や、通信トラフィック増加に対応するために通信キャリアの投資がハードウェアにシフトしている影響があったほか、ネットワークサービスが減収となりました。システムプラットフォームは、大型システム商談の減少によるサーバ関連の減収を、通信キャリアの投資増加による携帯電話基地局や通信キャリア向けルータの増収で補いました。海外は4.4%の減収になりましたが、為替影響を除くとほぼ前年同期並みです。欧米向けUNIXサーバが減収になり、米国の光伝送システムは、これまで投資を前倒してきた通信キャリアの新年度を控えた一時的な投資抑制によって前年同期並みにとどまりました。インフラサービスは豪州などで伸長しました。

	2011年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	20,715	2.2%
国内	13,181	0.9%
海外	7,534	4.4%
営業利益	716	96

システムプラットフォームは、大型システム商談の減少によるサーバ関連の減収を、通信キャリアの投資増加による携帯電話基地局や通信キャリア向けルータの増収で補いました。海外は4.4%の減収になりましたが、為替影響を除くとほぼ前年同期並みです。欧米向けUNIXサーバが減収になり、米国の光伝送システムは、これまで投資を前倒してきた通信キャリアの新年度を控えた一時的な投資抑制によって前年同期並みにとどまりました。インフラサービスは豪州などで伸長しました。

営業利益は716億円と、前年同期比96億円の減益になりました。国内では、ネットワークの増収効果や、PCサーバのコストダウン効果があったものの、大型システム商談の減少影響や、クラウドサービスで先行投資を進めているため、減益になりました。海外では、UNIXサーバの減収影響や、ネットワークの先行投資はありますが、欧州のサービスビジネスの採算性が好転しつつあり、改善しました。

サービス

(単位:億円)

売上高は1兆6,778億円と、前年同期比1.9%の減収になりました。国内は1.3%の減収です。システムインテグレーションは、製造分野及びヘルスケア関連の投資が回復しているものの、年初の震災影響に加え、金融及び公共分野の大型システム商談が減少しているほか、通信トラフィック増加に対応するために通信キャリアの投資がハードウェアにシフトしており、全体では減収になりました。インフラサービスも減収となりました。アウトソーシングは堅調に推移しているものの、ネットワークサービスはISP事業で回線料金込みのパック商品から単体商品へシフトしている影響がありました。海外は2.7%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。英国政府の緊縮財政政策の影響が継続しているほか、米国が伸び悩んでおりますが、豪州などが増収となりました。

	2011年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	16,778	1.9%
国内	10,336	1.3%
海外	6,441	2.7%
営業利益	522	53

システムインテグレーションは、製造分野及びヘルスケア関連の投資が回復しているものの、年初の震災影響に加え、金融及び公共分野の大型システム商談が減少しているほか、通信トラフィック増加に対応するために通信キャリアの投資がハードウェアにシフトしており、全体では減収になりました。インフラサービスも減収となりました。アウトソーシングは堅調に推移しているものの、ネットワークサービスはISP事業で回線料金込みのパック商品から単体商品へシフトしている影響がありました。海外は2.7%の減収になりましたが、為替影響を除くと1%の増収です。英国政府の緊縮財政政策の影響が継続しているほか、米国が伸び悩んでおりますが、豪州などが増収となりました。

営業利益は522億円と、前年同期比53億円の減益になりました。国内では、年初の震災影響に加え、大型システム商談が減少した影響があったほか、クラウドサービスで先行投資を進めています。海外では、英国政府の緊縮財政政策に伴う減収影響が継続しておりますが、欧州のサービスビジネスの採算性が好転しつつあり、改善しました。

システムプラットフォーム

(単位:億円)

売上高は3,937億円と、前年同期比3.7%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。年初の震災影響に加え、金融及び公共分野向けの大型システム商談が減少した影響によりサーバ関連が減収になりましたが、スマートフォンの普及に伴う通信トラフィック増加対策を背景として、通信キャリア向けルータや携帯電話基地局が伸長しました。海外は13.3%の減収になり、為替影響を除いても7%の減収です。ネットワークはほぼ前年同期並みですが、欧米向けUNIXサーバが減収になりました。

	2011年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	3,937	3.7%
国内	2,845	0.5%
海外	1,092	13.3%
営業利益	194	43

営業利益は194億円と、前年同期比43億円の減益になりました。国内では、ネットワークの増収効果や、PCサーバのコストダウン効果があったものの、サーバ関連の減収影響により、減益になりました。海外では、欧米向けUNIXサーバの減収影響があったほか、ネットワークを中心に先行投資を進めたことにより、悪化しました。

コピキタスソリューション

(単位:億円)

売上高は8,170億円と、前年同期比1.7%の減収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。パソコンは、タイの洪水に起因するHDD調達難に伴い販売台数が伸び悩んだほか、個人向け市場において価格競争が激化した影響を受けました。携帯電話は、震災やタイの洪水による生産及び販売への影響があったものの、株式会社東芝との事業統合効果やスマートフォンの販売好調により、増収になりました。モバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器は、震災やタイの洪水による車両生産の停滞や、エコカー補助金が前年上半期に終了した影響により、減収になりました。海外は4.7%の減収になり、為替影響を除いても1%の減収です。パソコンは欧州拠点を中心に販売台数が増加しましたが、モバイルウェアは、海外の車両生産が震災やタイの洪水により停滞した影響などにより減収になりました。

	2011年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	8,170	1.7%
国内	6,214	0.7%
海外	1,955	4.7%
営業利益	64	123

営業利益は64億円と、前年同期比123億円の減益になりました。国内では、パソコンが減収影響やHDD調達コストの増加影響をコストダウンにより補いましたが、携帯電話は減益となりました。震災やタイの洪水により生産及び販売が減少した影響や、フィーチャーフォンの低価格化の影響を受けたほか、スマートフォンの開発投資が継続していることによります。モバイルウェアも減収影響を受けました。海外では、パソコンがHDD調達コストの増加をコストダウンで補えなかったほか、モバイルウェアが減収影響を受けました。

営業利益は64億円と、前年同期比123億円の減益になりました。国内では、パソコンが減収影響やHDD調達コストの増加影響をコストダウンにより補いましたが、携帯電話は減益となりました。震災やタイの洪水により生産及び販売が減少した影響や、フィーチャーフォンの低価格化の影響を受けたほか、スマートフォンの開発投資が継続していることによります。モバイルウェアも減収影響を受けました。海外では、パソコンがHDD調達コストの増加をコストダウンで補えなかったほか、モバイルウェアが減収影響を受けました。

デバイスソリューション

(単位:億円)

売上高は4,266億円と、前年同期比10.2%の減収になりました。国内は6.1%の減収です。LSIは、前年同期に量産が本格化した次世代スーパーコンピュータシステム用CPUの出荷が第1四半期で完了した影響があったほか、震災影響及びタイの洪水影響によりデジタルAV向けを中心として減収になりました。電子部品も半導体パッケージなどの所要が伸び悩みまし

	2011年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	4,266	10.2%
国内	2,517	6.1%
海外	1,748	15.5%
営業利益	132	329

た。海外は15.5%の減収になり、為替影響を除いても9%の減収です。LSIは前年同期並みです。電子部品は、アジア向けを中心として半導体パッケージやLCDモジュールが減収になりました。

営業利益は132億円の損失と、前年同期比329億円の悪化になりました。国内では、LSIは減収影響があったほか、所要減に伴い製造ラインの稼働率が低下しました。電子部品も減収及び一部材料における価格高騰の影響を受けました。海外では、LSI、電子部品ともに所要減や円高による減収影響がありました。

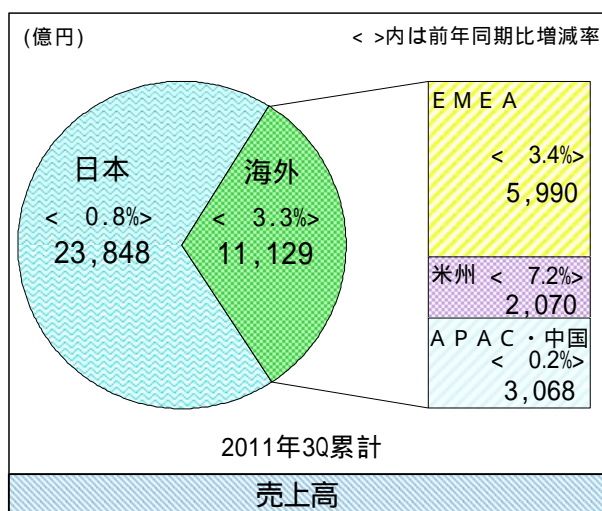
その他/消去又は全社

営業利益は546億円の損失と、前年同期比31億円の悪化になりました。新規ビジネス開発など先行投資を進めたことによりです。

独立行政法人理化学研究所様と共同開発中の次世代スーパーコンピュータ「京」はCPUを自社開発するなどグループ技術を結集し、目標とした10ペタフロップスの計算速度を実行効率93%で達成し、2011年11月に発表された計算速度のTOP500リストで2期連続第1位を獲得しました。800台超の筐体の製造は終了し、2012年の完成を目指し最終段階にあります。

<所在地別>

当社及び連結子会社が所在する国又は地域ごとの売上高及び営業利益は以下のとおりです。



〔営業利益〕

(単位:億円)

	2011年 3Q	前年 同期比	2011年 3Q累計	前年 同期比
日本	194 (2.4%)	136 (1.8%)	679 (2.8%)	531 (2.2%)
海外	23 (0.6%)	31 (0.8%)	10 (0.1%)	25 (0.2%)
EMEA (欧州・中近東・アジア)	22 (1.1%)	17 (0.9%)	48 (0.8%)	47 (0.8%)
米州	8 (1.4%)	27 (4.1%)	1 (0.1%)	37 (1.6%)
APAC・中国 (アジア・パシフィック)	9 (1.0%)	21 (2.1%)	36 (1.2%)	36 (1.2%)

(注) ()内は営業利益率